

教員名	水野 勲 (MIZUNO Isao)
所 属	文教育学部人文科学科地理学講座
学 位	博士 (理学)、東京都立大学、1998 年
職 名	助教授
URL / E-mail	http://info.pr.ocha.ac.jp/staff/detail.asp?staff=78927827 / mizuno.isao@cc.ocha.ac.jp

◆研究キーワード

集積 / 地理的モデリング / パネル調査 / 職住関係 / 韓国

◆主要業績

総数 (6) 件

- ・水野 勲 2006. 都市システムの時空間収束—MDS と Q 分析の方法論的比較. 行動計量学 33(2), 109-115.
- ・水野 勲 2007. 時間地理学と生活時間研究を結ぶもの : F-GENS パネル調査の経験から. F-GENS ジャーナル 7, 238-244.
- ・水野 勲 2006. 立地分析における偶然性の多重的な役割について. お茶の水地理 46,1-12.
- ・水野 勲 2006. 住まい. 『家族・仕事・家計に関する国際比較研究 韓国パネル調査 第2年度報告書』(お茶の水女子大学 21 世紀 COE プログラム) F-GENS Publication Series 17, 72-80.
- ・水野 勲 2007. 転居と通勤. 『家族・仕事・家計に関する国際比較研究 韓国パネル調査 第3年度報告書』(お茶の水女子大学 21 世紀 COE プログラム) F-GENS Publication Series 20, 25-35.

◆研究内容

- ① COE ジェンダー研究のフロンティアによる韓国パネル3年度、同4年度、中国パネル2年度の調査データを用いて、ソウルおよび北京の職住関係の変化、特に居住、通勤、引越しについて、性別、年齢、配偶関係、就業形態などに注目して分析し、3冊の報告書に分析結果を掲載された。
- ② 時間地理学と生活時間研究の結びつきの可能性について理論的な考察をし、その成果を人文地理学会大会で発表し、その後、F-GENS ジャーナルに論文を掲載した。
- ③ 地理的集積の現象をモデリングするにあたり、初期状態の小さな差異や、転換期の小さなゆらぎが大きな意味をもつことがあり、九鬼周造の『偶然の諸問題』をたよりにしてそれらを概念化した。その成果は、お茶の水地理に論文として掲載された。
- ④ 多次元尺度構成法 (MDS)を用いる心理学、社会学、地理学の研究者が集まったシンポジウムで、日本の近代化における都市間の時空間収束の分析を発表し、MDS とトポロジーの言語である Q 分析の方法論上の比較を行った。その成果は、学会誌「行動計量学」にて掲載された。

◆教育内容

学部では、地理学の必修科目である人文地理学のほか、経済地理学を講義し、コア科目の基礎ゼミ I で演習を行った。また、社会調査士の免許科目である、社会情報処理学演習、さらに地理学の専門科目である地域分析学演習、地理学フィールドワーク B の一日巡検を 2 回、卒論の指導を行った。6名の卒論生の指導を行った。

大学院では、博士前期課程の地理情報論演習で、生活時間研究と時間地理学の結びつきについて演習を行った。修論生1名の研究指導を行った。

◆Research Pursuits

I. I studied home-and-work relationships like residential situation, commuting patterns, and intra-urban migration in Seoul and Beijing metropolitan areas, focusing on gender, age, marital status, family type, and employment pattern by using F-GENS Panel Survey data by COE Frontiers of GENDER Studies in Korea and China. The results were printed in three of F-GENS Publication Series.

II. Rethinking theoretically the connection of time geography and time-budget studies, the results were presented at the annual meeting of the Association of Japanese Human Geographers, then were published in the F-GENS Journal.

III. I presented the theme for time-space convergence using MDS and Q-analysis at the annual meeting of the Association of the Quantitative Behavioral Science. The paper was published in the Journal of that association.

◆共同研究例

GISによる災害、犯罪、事故の都市社会地図の作成

◆共同研究可能テーマ

- ・経済地理学における経路依存性のモデリング
- ・ジェンダーの視点による時間地理学の再考
- ・都市空間におけるリスクの空間性の研究

◆将来の研究計画・研究の展望

1. リスクの地域分析と社会調査の接点に関する考察
2. 都市空間の職住分離の地域統計分析
3. 経路依存性を考慮した地域発展モデリング

◆受験生等へのメッセージ

ローカルな舞台で起こるさまざまな現象を関連づけて理解し、さらにそれらの関連をより広い文脈の中に位置づけること、そして既存の人文・社会科学の理論を地図や地域統計の分析によって、多様性を内部に含んだ理論へと拡張すること、これらが地理学の課題としてあります。理論的な思考と、ユニークな現象への愛着を同時にもつために、私の授業が役立てばいいと思っています。

◆Educational Pursuits

At undergraduate level, I delivered two lectures (Human Geography, Economic Geography), three seminars (Basic Seminar, Social Information Processing, and Regional Analysis), and two field trips (Kanda River, Kotoh zero meter area). I made a guidance for six theses of undergraduate students.

At graduate level, I had one seminar for time geography and time-budget studies. I advised one graduate student's theses.